

子供ど真ん中の学校

～かがやく海が見える丘より～

令和6年12月2日
長崎市立畝刈小学校
学校だより NO. 95
校長 田中 成年

＜子供ど真ん中教育＞

～4年生 認知症サポーター養成講座～

先日、4年生を対象とした「**認知症サポーター養成講座**」を行いました。4年生は総合的な学習の時間に福祉について学習をしており、つい先日もアイマスク体験などを校内で実施いたしました。

今回は、認知症サポーター養成講座「**笑顔で優しい町を目指して**」と題して、三重地区包括支援センターの方、認知症サポートリーダーの方々にお越しいただき、お話や劇、ビデオを通して**認知症に対する正しい理解**をすることができるよう講座を開いていただきました。



質問：「みなさんには、おじいちゃんやおばあちゃんはいいますか。好きなところは。」

子供たち：「優しい。面白い。料理がうまい。」

質問：「おじいちゃんやおばあちゃんのためにしていることは何ですか。心がけていることは何ですか。」

子供たち：「片付けのお手伝い。優しくしている。」

質問：「自分たちが年をとることで心配なことは何ですか。」

子供たち：「認知。腰が痛くなる。物忘れ。」

包括センターの方の質問に、子供たちはすばやく答えることができていました。その答えには、おじいちゃんやおばあちゃんに対する思いや優しさがあふれていました。うれしくなりました。



認知症サポーターとなるために、「**認知症とは何か**」脳の働きについて学びました。



劇やクイズを通して、認知症の方への正しい接し方や言葉かけについて、詳しく分かりやすい解説をもとに学びを深めました。



「**自分ができることを考えて行動する**」認知症の人が安心して暮らせるようにする」「**サポートすることによって認知を遅らせることができる**」など、認知症の方をサポートするための認知症に対する正しい理解や正しい行動について学びました。

「**認知症**」とは、脳の病気であるということ。いろいろな原因で脳の細胞が死んだり働きが悪くなったりすることで、生活するうえで困ったことが出ている状態のことになります。

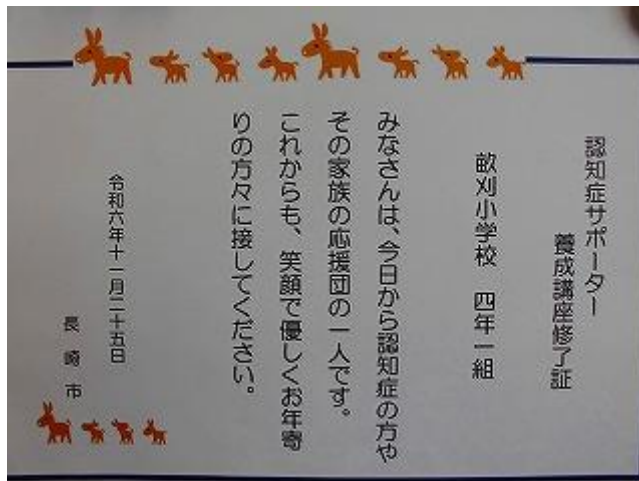
認知症が進んでしまうと、「ご飯を食べたのを忘れる」「季節が分からなくなる」「自分の家が分からなくなる」「家族が分からなくなる」「考えるスピードが遅くなる」「新しい機械が使いなくなる」など、生活するうえでとても困ったことが起きてしまいます。

できるだけ認知症が進むのを遅らせるのが「認知症サポーター」をはじめ、周囲の人たちの正しい理解や行動となります。



「認知症の人へのかかわり方」を教えてくださいました。

4年生の子供たちは、最後までしっかりと講座を受け、見事、認知症サポーターとなることができました。



4年1組の終了証ですが、2組3組4組も終了証をいただいております。

ぜひ、ご家庭や地域でもともに考え、理解を深めていただきますとともに、学校・家庭・地域ともに手をつなぎ、地域ぐるみで様々な理由で困っている人たちを助けることができるよう、さらに優しい畝刈地区にしていまいりましょう。